

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの個性を伸ばし、グローバルな視点を持って高い志をはぐくみ、主体的に生きようとする生徒を育てる学校

- (1) 生徒の高い志をはぐくみ、希望する進路実現のための力を育てる学校
- (2) 世界的な視野を持ち、多様な文化・価値観を持った人々を理解し、協働できる生徒を育てる学校
- (3) コミュニケーション力を身につけ、自分の言葉で自分の考えを表現できる生徒を育てる学校
- (4) 校訓である「自他敬愛」の心をはぐくみ、互いに支え励ましながら成長できる生徒を育てる学校
- (5) 地域に信頼され愛される学校の取組みを通して、社会的貢献ができる生徒を育てる学校

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と、生徒の進路希望実現

(1) 「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業改善に取り組むとともに、希望する進路を切り拓く学力を育成する。

ア 「東百舌鳥 Style」(「めあて」「ふり返り」の明確化による学習の定着、ICT 機器<1人1台端末を含む>の有効活用、「協調学習」を軸とした主体的な学びの推進)を全教科で実施し、教員の授業力向上を図るとともに、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成をバランスよく行い、生徒の基礎学力の定着を図る。

イ 学力生活実態調査を分析・活用し、生徒の希望する進路実現に必要な学力の育成に努める。

※ 生徒の学校教育自己診断における「授業の内容をわかりやすく工夫」の肯定率について80%以上を維持する。(R03:81%, R04:78%, R05:79%)

※ 生徒の学校教育自己診断における「1人1台端末を含め、ICT 活用に取り組んでいる」の肯定率について R08 年度には100%をめざす。(R03:94%, R04:93%, R05:96%)

※ 学力生活実態調査における3年生のGTZ値(国数英)について、R08年度には、A5%、B30%、C55%をめざす。(R03:A1%/B18%/C49%, R04:A3%/B26%/C44%, R05:A2%/B21%/C45%)

(2) 普通科専門コース制の特色を生かした教育課程を編成し、生徒の学習意欲の向上を図る。

ア コース制の充実を図り、3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を構築する。

※ 専門コースにおける希望する進路の実現達成率について95%以上を維持する。(R03:95%, R04:97%, R05:98%)

(3) 個に応じた指導を充実させ、自己学習を支援する。

ア 進学及び授業補充講習を実施するとともに、自学自習のための支援体制を整備する。

※ 生徒の学校教育自己診断における「年度当初より自ら進んで学習するようになった」の肯定率を R08 年度には77%以上をめざす。(R03:67%, R04:73%, R05:75%)

2 生徒の主体性・資質・能力の育成と、豊かな人間性の涵養

(1) 「学びに向かう探究学習」の研究・実践を継続し、教育活動の様々な機会に生徒の言語活動の充実を図るとともに、SDGsの視点を持ちながら問題解決できる力を育成する。

ア 生徒一人ひとりが課題に向き合い自己の在り方生き方を真剣に考える学習活動を展開しながら、生徒の問題解決能力とプレゼンテーション力を育成する。

※ 生徒の学校教育自己診断における「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」の肯定率について90%以上を維持する。(R03:89%, R04:87%, R05:91%)

(2) グローバルな視点と、多様性に対する理解力をはぐくむ。

ア 英語コミュニケーション能力を向上させる。

※英検 IBA 準2級以上合格レベル数 (R05:37人) について R08 年度には50人以上をめざす。

イ 外部機関との連携による異文化理解学習(交流等)を企画・立案し、実施する。

(3) 「自他敬愛(自らに誇りをもち、自らを大切にす。他者を尊重し、他者を思いやる)」の心を持ったグローバルリーダーを育成する。

ア ピア・サポート」活動を推進・充実させ、相手と協力し合い友好的パートナーシップを築くことで、「自他敬愛」の精神を育てる。

(4) 特別活動・生徒会活動を通し、生徒の自主性を重んじながら、社会的基礎力を育成する。

ア 運営を通して自らの役割の自覚と責任感を持ち、仲間とともに一生懸命取り組み最後まで成し遂げる喜びを経験できるよう、特別活動について工夫を凝らす。

※ 生徒の学校教育自己診断における「学校行事は楽しい」の肯定率について90%以上を維持する。(R03:88%, R04:89%, R05:91%)

※ 部活動加入率を R08 年度には70%以上をめざす。(R03:50%, R04:56%, R05:66%)

3 安全で安心な学びの環境整備と規範意識の醸成

(1) 安全で安心な学びの場づくりを推進する。

ア 今後予想される自然災害、疫病感染拡大を想定し、危機管理体制の充実・防災教育の取組みを充実させる。

イ 校内の衛生管理を徹底するとともに、各委員会を中心に、生徒自身が健康管理に関する正しい知識を身に付けて実践できるよう指導する。

(2) 生徒の抱えている課題を見逃さず、学校全体で共有し支援する体制をつくる。

ア 卒業後の社会自立に向けて学校生活を送ることができるよう「高校生活支援カード」等を活用し、課題を抱える生徒の状況把握とともに必要に応じて支援や外部機関等との連携に努める。

※ 教職員向け学校教育自己診断における「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率を R08 年度には90%以上 (R03:84%、R04:88%、R05:81%) をめざす。

(3) 規範意識を向上させる取組みを推進する。

ア 毎朝の通学指導を継続し、通学マナー及びあいさつ運動を推進するとともに、頭髪・服装・遅刻等、社会人としてのマナーについて意識を向上させる。

イ スマートフォンや個人の端末利用時等の SNS 上の人権侵害防止についての取組みを推進する。

※ 生徒の学校教育自己診断による「生活規律・学習規律の指導について理解できる」の肯定率について R08 年度には85%以上をめざす。(R05:75%)

4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み

(1) 研修・学習会等、教職員の資質向上をめざした取組みを充実させるとともに、教職員の経験年数や適性に応じた役割分担をして学校組織力を向上させる。

(2) 「働き方改革」を推進し、教職員の安全及び健康の確保、職場環境の改善を図る。

※ 教職員のストレスチェックによる「健康総合リスク」の値について基準値以下(概ね良好な状態)を維持する。(R03:98, R04:89, R05:89)

(3) 開かれた学校づくりを推進し、生徒・保護者に信頼され、地域中学生にとって「行きたい学校」となることをめざす。

ア 学校説明会等を積極的に実施し、本校の特色ある取組みをアピールする。

イ 本校 Web ページや学校クラウドサービスを活用して、最新の学校情報を内外に発信する。

ウ 地域と密に連携し、行事等に積極的に参加する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、学校教育自己診断の回答率は教職員100%、生徒88%、保護者26%であった。保護者の回答率は前年度より2ポイント増加したが、依然として低い。ウェブ回答の方式をとっているが、回答期日までに学校からの連絡配信に対して未読状態の保護者は半数であった現状を踏まえ、次年度は、回答期間中に再連絡を行うなど回答率の向上に努めたい。 ・回答内容については、全体に前年度より肯定的回答が減少し、多くの項目で「わからない」「判断できない」が増加している。学校の教育活動全般について、生徒・保護者・教職員の理解促進を図るための目的の明確化や周知方法の工夫が必要である。 <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業・指導方法の工夫」についての質問に対し、教職員は肯定的回答率73%と6ポイント減少、生徒は78%と1ポイントの減少となった。「1人1台端末の活用」については、教職員が91%と5ポイント減少、生徒は95%と1ポイント減少しているものの、90%以上を維持している。一方、教職員の「相互授業見学や校内研修が役立つ」は73%で23ポイント減少、「授業方法について検討する機会を持っている」は73%で16ポイント減少となった。相互授業見学や校内研修は計画どおり実施できているものの、内容等に不足を感じる教職員が増加している状況から、実施内容等について検証し、教職員のニーズに応じたバージョンアップを図るとともに、目的を明確化することが必要である。 ・「到達度の低い生徒に対する学習指導」に関する質問に対し、教職員の肯定的回答率は50%となり、昨年度の6ポイント減少からさらに14ポイントの減少となった。ひがも塾は計画的な開催を継続しているが、到達度の低い生徒が自らひがも塾に行くことは少ない。教室掲示の案内に加え、生徒への個別の働きかけも行うなど、生徒が学習習慣の定着をはかれるよう来年度も引き続き、工夫を続けていきたい。 <p>【学校生活等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校行事は楽しい」という質問に対し、生徒の肯定的回答率は88%と2ポイント減少。今年度は生徒全員が楽しめる体育祭をめざし実施形式等の変更を行ったが、それに戸惑う生徒も見られた。今後も、学校行事の実施内容を、検証を続けながら充実を図るとともに、生徒への丁寧な説明を行っていく。 ・「部活動に力を入れている」という質問に対し、保護者からの肯定的回答率は70%と11ポイント減。生徒は72%で3ポイント減少しており、入部率も昨年度より3ポイント下がっている。今年度は部活動入部促進のために新入生を対象に4月に実施している「ウェルカムシーク」に加え、生徒発案により「第2次ウェルカムウィーク」を10月～11月に実施した。部活動については、働き方改革の推進や教職員定数減など厳しい状況は続くが、持続可能な部活動運営を模索しながら引き続き活性化に取り組んでいきたい。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活規律や学習規律などの指導は理解できる」という質問に対し、保護者からの肯定的回答率は81%で6ポイントの減少、生徒は73%で2ポイントの減少であった。本校の生徒指導の方針は一定の理解を得られていると思われるが、今後も規則の点検・見直しを継続的に行うとともに、「学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」という質問に対する保護者の肯定的回答率が69%と13ポイント減少していることから、学校の教育活動全般について、生徒・保護者へのより丁寧な説明に努めていく。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」という質問に対する教職員の肯定的回答率は57%で22ポイント減少、「教育活動全般にわたる評価を行い、教職員間でよく話し合っって次年度の計画に生かしている」という質問に対する教職員の肯定的回答率は57%で32ポイントの減少となった。また、「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制」についても、肯定的回答率が45%となり、23ポイント減少となっており、教職員間で平素から気軽に情報共有や相談ができる体制づくりが必要である。教職員の意見を踏まえながら職員室の配置変更等の環境整備を行っていく。 ・「校長は教育理念や学校運営についての考え方を明らかにし、リーダーシップを発揮している」という質問に対する教職員の肯定的回答率は86%と3ポイント上昇した。一方、「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担」という 	<p>第1回【令和6年6月25日(火)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和6年度 学校教育計画について 承認 ○昨年度から導入された「百問繚乱」について、採点システムの活用状況についてはどうか？ →ほとんどの教員が活用している。まだ慣れていないのでやや時間がかかるものの、確実に円滑化できている。 ○「ひがも塾」の活動を今後継続するために考えていることはあるか？ →大阪公立大学の学生は熱心に来てくれるが、テスト期間等、様々な事情がある。そのため、教育産業等の活用についても検討している。 ○行事活動部の部活動関係の廃棄物について、過去20年分のゴミを処分したとは部活動のものか？ →先輩から受け継いできたものの中に使用できないものも多かったため、廃棄することができないかという部活動リーダーから申し入れがあり、ごみ処理を実施した。 ○「学力生活実態調査」の結果を受けて、2年生はGTZだけでなく、偏差値を生徒に示した理由は何か？ →難易度別に3段階に分けられており、GTZでないと全体の位置づけは難しいが、保護者の方が理解しやすいようにあわせて、偏差値で示した。 ○生徒の英検の申し込みが減少した理由は？ →申し込み方法が変わり、学校を経由せず生徒が個別に申し込む方法になったことで、生徒の自主性に左右されるところが大きくなったことも一因と思われる。 ○GTECなどもあるが、なぜ英検を実施しているのか？ →英検は外部会場実施がある。その他の英語の検定試験は校内実施が多く、校内で放課後に実施して、解答を当日中に速やかに送付するなど、煩雑な業務が発生することもあり、実施が難しくなっている。 ○今年度から導入した学習支援クラウドサービスについて、どのようなものか？ →教員からの課題の配信や様々な学習動画コンテンツがあり、自学自習を支援できる。校務を支援できるようなお知らせや欠席連絡の機能もある。導入初年なので、今後も活用状況を分析しながら効果的な活用方法を検討する。 ○ご意見・ご感想 <ul style="list-style-type: none"> ・多岐にわたって様々な計画を立てていると感心。行事活動部担当の中区での高校同士を結び付けられるような活動ができれば良いと感じる。 ・生徒指導部や行事活動部の試みを受けて、中区が進めている取組みのアンケート、ヒアリングなどにご協力いただければ幸い。 ・2年生の基礎ワークブックによる基礎学力の伸長を図る取組みはとても良い。学校全体の取組みにできれば良いと感じた。 ・学校のタスクが増加しており、その対応に感心する。採点システムや入試システムへの対応も柔軟にしている。生徒に対する指導も十全であり、今後の成長を期待できる。 <p>第2回【令和6年10月29日(火)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和7年度 使用教科書について <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度使用教科書一覧表と見本教科書を提示→承認 ○令和6年度 第1回授業アンケート結果について <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果の共有（資料より）→校内平均は高水準 ・アンケート結果を受けて分析 →生徒取り組み2の生徒は授業への取り組みへの意識が高い。生徒取り組み1予習復習の項目は低い。自習室は生徒周知を行う。学習支援クラウドサービスは活用の少ない教科からの意見も踏まえ、業者と協力して改善を図っていく。 ○令和6年度 学校教育目標の自己評価の進捗状況について <ul style="list-style-type: none"> ・1年生 →自他敬愛の心をはぐくむことに重きをおいている。生徒の中には人とのコミュニケーションが苦手な生徒もいるため、学年全体で中学では成り立っていた関係性が、高校でも成り立つのかを考えさせる機会を増やしている。 ・2年生 →修学旅行は物価高のため、3泊から2泊に変更。事後アンケートより、満足度94%、普通6%（中学生で同様の体験を経験していた）という結果となり、充実した修学旅行となった。1年から続けている終礼時の5分課題は習慣づいている。学習面に課題を抱える生徒に対しては、日誌を個人に行っている。 ・3年生 →進路について第1希望の決定就職5名、それ以外は進学（自己開拓の就職含む）。2年生で志望校を絞っていたので入試のスケジュールに合わせて作成でき、ワークシートで自分を振り返る作業に重きをおいている。生徒が納得できる進路サポートをしていく。 ○「学びに向かう探究学習」取り組み概要について <ul style="list-style-type: none"> ・1年生

府立東百舌鳥高等学校

質問に対する教職員の肯定的回答率は 50%と 22 ポイント減少しており、中でも「判断できない（わからない）」の増加が 14 ポイントと大きい。今後は、教職員とのコミュニケーションを密にしながら、教職員全体が前向きな集団として教育活動全般に当たることができるよう進めていきたい。

→南大阪元気プランを進行中 探究活動を本格的に進めていく。

- ・ 2年生

→SDGs の観点からブラッシュアップ。大人の観点も入れて自由研究を行う。国際理解⇒ボランティアに参加する視点や自身のキャリアについて「みらいず」に依頼している。

- ・ 3年生

→志望理由書の書き方や自己PRなどの内容をスライドやプリントで丁寧に伝える。

○ご意見・ご感想

- ・ 授業見学の感想および授業改善に向けた提言
- ・ 授業の様子（特に3年生で進路決まった子の様子）は、生徒の温度差があるようにみえた。

→進路が決まった子は決まっていな子を手助けしてあげてほしいと伝えている。

- ・ 教科書も授業のやり方も昔と違うと感じた。
- ・ コロナを経てデジタルな授業づくりが進んだように感じる。デジタルの活用がよかった。ノート利用がなくなったのは気になった。学んで来たものの蓄積はどうなっているのか？

→教科・科目による。情報は自作プリントを回収し、チェック後に溜めておく（ファイルにはさむなり）。社会は1人1台端末を活用してフォーム作成ツールでレポートの蓄積をしている。数学は共通のプリントで授業をすすめている。本来はノートを書かせたいが、統一して進めるためにプリントを実施している。プリントにしたことで、できなくなることはない。

- ・ 英語のスピーキングは絶対なのか？大学でも話すことは生徒自身も積極的、文法になると弱く感じる。
- ・ 授業のメリハリがあることで授業アンケートの高水準につながっているのではないかと思った。

→研修等で各先生のできることを増やしていきたい。ICTを使っていることにだけに満足せず、授業内での効果的な活用を進めていきたい。

第3回【令和7年1月29日（火）】

○令和6年度 学校教育自己診断について

- ・ 保護者の回答率を上げるためには、保護者が簡単にアンケートにアプローチできるような工夫が必要。メールでの案内では、見ない人も多いと思う。保護者も学校もお互いに協力できる関係づくりができればいい。

→周知方法の検討をしていきたい。

- ・ 次年度、進路に関する保護者向け説明会を対面実施するのはいいと思う。動画開催も利点はあるが、やはり保護者が来校して直接聞ける機会を作ることで、理解も深まると思う。

- ・ 教員研修の満足度が激減したのが気になる。どう分析しているのか。

→教員研修や研究授業の目的を明確に示せていなかったこと、ここ数年研究授業の実施内容が同じであったため、マンネリ感があつたのではないかと考えられる。次年度は目的の明確化と教員のニーズを踏まえた内容のバージョンアップを図りたい。

○オープンスクールでのアンケート結果について

- ・ 中学生が公立高校志向から私学高校志向になっているのが気になる。中学生は志願先を確定するときにどんなポイントで判断しているのか。

→金銭面を考慮すれば公立が優位。設備面ではどうしても私学の方が充実しているというイメージが強い。公立も教育活動に必要な施設設備は整っているのもっと上手にアピールする必要があると思う。在校生に話を聞くと、公立のほうがのびのびしているのも過ごしやすいという意見もある。

- ・ 保護者も中学生も高校のことをあまり知らない。中学との交流をもっと増やし、東百舌鳥高校を知ってもらうことが大事だと思う。

- ・ 部活動加入率が上がらないのも気になる。既存の部活だけでなく、今どきの生徒が興味ある分野の新しい部活を作るなどいいと思う。

→今年度部活動に関する生徒アンケートを実施した。今後の活性化に向け検証・検討していく。

○令和6年度 学校経営計画及び評価・令和7年度 学校経営計画について

→満場一致で承認。

○ご意見・ご感想

- ・ 学校として様々な課題に向き合い、新たな取り組みをしようとしていることが感じられる。現在の取組み（授業や活動）は今後の生徒の強みになるはずである。また、学校教育自己診断（生徒）の結果の中で、「自ら勉強するようになった」の回答が7割というのは高いと思う。今後も教職員間の対話を大切にしながら学校運営を進めてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と生徒の進路希望実現	<p>(1) 「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業改善 ア 「東百舌鳥 Style」の推進と「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成による生徒の基礎学力の定着</p>	<p>(1) ア 「東百舌鳥 Style」の推進、「観点別学習状況の評価」について、年度当初に全教員対象の研修を行い周知するとともに、定期的に研修を行い実施状況について確認する。 ・生徒の1人1台端末の活用について好事例を共有し活用を推進するとともに、非常時に備えオンライン授業の準備を常に行う。</p>	<p>(1) ア 生徒の自己診断で「授業を工夫」の肯定率を昨年度より上昇させる。[79%] ・生徒の自己診断で「ICT活用」の肯定率について95%以上を維持する[96%] ・教員の自己診断で「研修等が役立っている」の肯定率について95%以上を維持する。[96%]</p>	<p>(1) ア 教員研修を年間6回実施し、全教員で学習支援クラウドサービスの活用方法や生徒の学びに係る支援方法について共有。 ・「授業を工夫」78% (△) ・「ICT活用」95% (○) ・「研修が役立っている」73% (△) ※研修内容を検証し、教員ニーズを踏まえた研修計画の立案、研修目的の明確化が必要。</p>
	<p>イ 基礎学力調査の有効活用</p>	<p>イ 教員向け学習会を実施し、生徒の学力の現状を把握するとともに全教員で課題を共有する。 ・プランニング会議を中心に、学力生活実態調査の有効活用について検証を行い、全教員と共有することで生徒の学力向上に役立てる。</p>	<p>イ 教員向け学習会を年2回以上実施し、課題について共通認識を図る。 ・学力生活実態調査について検証結果を全教員で共有するとともに、その有効な活用方法を提案する。</p>	<p>イ ・基礎学力調査についての研修を学年ごとに3回実施し、共通認識、今後の課題等の共有を図った。(○) ・基礎学力向上に向けて、進路指導部・プランニング会議を中心に検証し、活用方法の提案を行った。(○)</p>
	<p>(2) 普通科専門コース制の特色を生かした教育課程編成 ア コース制の充実</p> <p>(3) 個に応じた指導の充実と自己学習の支援 ア 自学自習のための体制整備</p>	<p>(2) ア 各コース担当者会議を定期的に行い、生徒の進路実現に向けて充実した内容となるよう、コース内容の検証を行うとともに、新カリキュラムについても検証を行う。</p> <p>(3) ア 自学自習の習慣を定着させることを目的とした「ひがも塾」の存在をさらに生徒に浸透させ、生徒の意識向上に資する。</p>	<p>(2) ア 生徒の自己診断で「各コースの進路実現率」の肯定率について95%以上を維持する。[98%]</p> <p>(3) ア 生徒の自己診断で「自ら進んで学習するようになった」の肯定率について77%以上をめざす。[75%]</p>	<p>(2) ア 1年早期からの進路達成に向けた意識づけにより、生徒はニーズに合致したコース選択ができている。 「各コースの進路実現」97% (○)</p> <p>(3) ア 「ひがも塾」を計画的に開催(41回)。今年度より学習支援クラウドサービスを導入し、生徒の主体的学びの促進を図った。 「自ら進んで学習」76% (○) ※指標には及ばなかったが、前年度よりも1ポイント上昇。</p>

府立東百舌鳥高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 生徒の主体性・資質・能力の育成と、豊かな人間性の涵養</p>	<p>(1)「学びに向かう探究学習」の研究・実践の継続と生徒の言語活動の充実 ア 生徒の問題解決能力とプレゼン力の育成</p> <p>(2)グローバルな視点と多様性に対する理解力の育成 ア 英語コミュニケーション能力の向上</p> <p>イ 外部機関との連携による異文化理解学習</p> <p>(3)グローバルリーダーの育成 ア ピア・サポート活動の推進</p> <p>(4)特別活動・生徒会活動を通じた社会的基礎力の育成 ア 特別活動に関する工夫</p>	<p>(1) ア 「総合的な探究の時間 (GS)」をはじめ、あらゆる授業において、生徒が自分の考えをまとめ、発表する機会を積極的に設ける。</p> <p>(2) ア 世界共通語の1つである英語の有用性を理解させ、英検 IBA で英語の実力を測る。</p> <p>イ JICA 等の機関等に依頼し、異文化理解学習を実施する。</p> <p>(3) ア 生徒会役員、各部の主将等にピア・サポート研修を定期的実施し、「自他敬愛」の精神を養いながら、次世代のリーダーを育成する。</p> <p>(4) ア ピア・サポート研修を経験した生徒を中心とし、各行事(体育祭、文化祭、学校説明会、Shrike Cup 等)を生徒が運営することで、社会的な基礎力を育むと同時に特別活動を活性化させる。</p>	<p>(1) ア 生徒の自己診断で「自分の考えをまとめ発表する機会がある」の肯定率について90%以上を維持する。[91%]</p> <p>(2) ア ※英検 IBA 準2級合格レベル数について50人以上をめざす。[37人]</p> <p>イ 昨年度以上の回数実施をめざす。[1回]</p> <p>(3)(4)ア ・リーダー研修年3回/ピア・サポート研修年8回以上実施する。[3回/10回]</p> <p>・生徒の自己診断で「学校行事は楽しい」の肯定率について90%以上を維持する。[91%]</p> <p>・生徒が運営する中学生向け学校説明会のアンケートで、参加者の満足度「良かった」について肯定的評価95%以上をめざす。 [「大変良かった」54%/「良かった」39%]</p> <p>・部活動については「部活動大阪モデル」を進め、部活動入部を促すイベントを実施する。</p>	<p>(1) ア 授業におけるグループワークや発表の場を積極的に設けた。探究発表会を2月に実施。 「発表する機会がある」90% (○)</p> <p>(2) ア 準2級合格レベル数26人 (△) ※生徒の英語力底上げを図る取組みの検討が必要。</p> <p>イ 他府立高校の中国にルーツのある活動に取り組む生徒・卒業生等を講師に招いた異文化理解学習、韓国の上マク高校とのオンライン交流を実施。4回 (◎)</p> <p>(3)(4)ア ・リーダー研修6回、ピア・サポート研修8回実施。(○) ※両研修の内容を見直し、研修設定回数を精査。計画通り実施できている。 ・「学校行事は楽しい」88% (△) ※今年度は体育祭を全学年が協働し主体的に取り組めるよう形式を変更したが、生徒には変化に対するとまどいが見られた。引き続き各行事の実施内容を検証し、充実を図る。 ・生徒会執行部、クラブ等の生徒有志がサポート隊として「オープンスクール」等の学校行事に主体的に取り組んだ。参加者アンケートでも生徒の参画に好意的な意見が多数見られた。 肯定的評価91% (△) ・部活動大阪モデルを2クラブで実施。新入生対象のウェルカムウィークを2回実施し、入部促進を図った。(○)</p>
---	--	--	--	---

府立東百舌鳥高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 安全で安心な学びの場づくり 環境整備と規範意識の醸成</p>	<p>(1)安全で安心な学びの場づくり ア 危機管理体制の充実と防災教育の取組みの充実</p> <p>イ 校内の衛生管理の徹底と生徒の健康管理に関する意識の醸成</p> <p>(2) 生徒の抱えている課題を見逃さず、学校全体で共有し支援する体制をつくる。 ア 課題を抱える生徒の状況把握に努め、必要に応じて支援や外部機関等との連携</p> <p>(3) 規範意識の向上をめざす取組み ア 社会人としてのマナーの指導 イ SNSに関わる人権侵害防止教育の推進</p>	<p>(1) ア マニュアルを定期的に見直し様々な災害等の場面を想定した危機管理体制を確認する。 また、これまでの防災訓練の検証を基に内容を充実させる。</p> <p>イ 生徒保健委員及び生徒美化委員の様々な活動を通じて、生徒全体に衛生管理・健康管理に対する意識を高める。</p> <p>(2) ア 校内の教育相談・支援体制を全教職員で共有し、教員間での相互理解を促進するまた、「高校生活支援カード」等の活用や、日々の活動を通じて課題を抱える生徒の状況把握に努め、必要な支援や外部機関等との連携を進める。</p> <p>(3) ア・朝の通学指導を学校全体で取り組み、通学マナーを徹底する。 ・社会人として当たり前の時間管理について指導を徹底する。 イ 外部講師による研修を行い、SNS活用のマナーについて考え自覚する機会を作る。</p>	<p>(1) ア 教員の自己診断で「災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう役割分担がされている」の肯定率について 83%以上をめざす。[81%]</p> <p>イ 生徒保健委員会：前・後期各3回以上開催（前期には、学校保健委員会での発表を行う） 生徒美化委員会：前・後期各3回以上開催</p> <p>(2) ア 教員の自己診断における「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率 90%以上をめざす。[81%]</p> <p>(3) ア 遅刻総数について前年度比減をめざす。[2461件] イ 生徒の自己診断で「人権、社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率について 90%以上を維持する。[92%]</p>	<p>(1) ア マニュアルの見直しと周知、防災訓練を計画通り実施した。 「災害時の役割分担」80% (△) ※各教職員に役割分担を意識づけるための確認方法の工夫が必要。</p> <p>イ 生徒保健委員会を前・後期3回ずつ実施。前期学校保健委員会で生徒の取組みについて発表 (○) 生徒美化委員会を前・後期3回ずつ開催。学内や学校周辺の美化活動などを実施した。(○)</p> <p>(2) ア 「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」73% (△) ※校内の教育相談・支援体制を整理したフローチャートを作成し、全教職員に共有したが、新たな支援方策の検討が同時進行であったため、教員間の理解が不十分となった。今後スムーズな運用に向け、更なる理解促進を図る。</p> <p>(3) ア 通学指導及び遅刻指導を実施。年間遅刻総数は2381件で、昨年度より微減 (○) イ 計画通り研修を実施するとともに、あらゆる機会を通じて規範意識の醸成を図ったが、生徒の実感を得るには及ばなかった。引き続き計画的な研修の充実を図る。「学ぶ機会」87% (△)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み</p>	<p>(1)教職員の資質向上と適材適所の人員配置による組織力向上</p> <p>(2) 「働き方改革」を推進し、教職員の安全及び健康の確保、職場環境の改善を図る。</p> <p>(3)開かれた学校づくり ア 学校説明会の積極的な実施 イ Web ページやクラウドサービスによる情報発信</p> <p>ウ 地域への参画</p>	<p>(1) ・授業見学週間を設け、教員間で相互に授業を観察し意見を交換することで、授業改善の一助とする。 ・月に1回のペースで「生徒の主体的な学び」「観点別学習状況の評価」等、日頃悩んでいるテーマの学習会を開き、自由に授業についての意見交換ができる機会を設ける。 ・個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担を行うことで、学校の組織力を向上させる。</p> <p>(2) ・積み重ねてきた業務について継承する方法を検討し、教職員の生徒への教育指導以外の業務に係る時間を短縮することにより生徒と向き合う時間を確保する。</p> <p>(3) アイ ・学校説明会を積極的に行い、本校の特色や魅力を伝えると同時に、Web ページ等をさらに充実させ、本校の取組みについて生徒・教職員を通じて発信する。</p> <p>ウ 地域のイベント等への参画を推進する。</p>	<p>(1) ・教員の自己診断で「相互授業見学等が教育実践に役立つ」の肯定率について 90%以上を維持する。[96%] ・教員の自己診断で「教員間で授業方法等について検討する機会を作っている」の肯定率について 85%以上を維持する。[89%] ・教員の自己診断で「適性・能力に応じた校内人事がなされている」の肯定率について 70%以上をめざす。[72%]</p> <p>(2) ・これまでの業務を次代に引き継いでいく方法を検討する。時間外勤務が月 80 時間以上の職員数について前年度を下回るよう努める。[のべ2名]</p> <p>(3) アイ ・生徒の自己診断で「中学生時にオープンスクール等に参加した」の肯定率について 70%以上をめざす。[64%]</p> <p>ウ 地域へのイベント等への参加を昨年度以上にする。[13回]</p>	<p>(1) 授業見学週間を2回、研究授業を1回設け、意見交換を行った。また、研究授業に向けた研修を実施した。 ・「教育実践に役立つ」73% (△) ・「検討する機会」73% (△) ※既存の実施内容について検証し、教員のニーズに応じたバージョンアップを図る必要がある。 ・「校内人事」50%。非常に低い割合となった。改善に向けた方策の検討が必要。(△)</p> <p>(2) ・近年の取組みの継続により教職員の意識も高く、80 時間以上の職員数は0人 (◎)</p> <p>(3) アイ ・「今年の入学生の参加率」67% (○) ※指標には達しなかったが、昨年度よりも3ポイント上昇。また、本校への進学希望増加につなげるため、次年度の開催時期や内容の検討を行った。 加えて、今年度より公式 SNS を開設し、生徒と協働しながら本校の魅力や日常の教育活動について発信した。</p> <p>ウ 授業や生徒会、部活動等の取組みとして地域のイベント等に積極的に参加した。28回 (◎)</p>